

1. 設置者

鹿児島県厚生農業協同組合連合会
鹿児島市与次郎1丁目13番1号
099-806-1101

2. 設置目的

本研修の目的は社会福祉士及び介護福祉士法に基づいて、介護福祉に関する専門的知識及び技術を修得する機会を広く提供するとともに、医療と福祉を連携し得る高度人材を輩出するとともに地域や家庭での介護力の向上を支援することを目的とする。

3. 研修の名称

鹿児島厚生連病院 介護福祉士実務者研修 通信課程

4. 運営主体

鹿児島県厚生農業協同組合連合会 鹿児島厚生連病院
鹿児島市与次郎1丁目13番1号
099-806-1101

5. 教員組織

- ・養成施設長
- ・教務に関する主任者
- ・介護過程Ⅲ担当教員
- ・医療的ケア担当教員
- ・その他職員

6. 履修方法

①通信課程

受講生はカリキュラムに定めた課題提出期限までに課題を提出する。
受講生は課題の進捗を確認しながら、計画的に課題に取り組むこと。
添削課題はeラーニングで管理を行う。〔一般社団法人知識環境研究会〕
通信学習は鹿児島県在中を対象とする。

②通学授業

「介護過程Ⅲ」「医療的ケア演習」については通常授業とする。
通常授業までに、あらかじめ定められた自宅学習に取り組むこと。

7. スクーリング施設

鹿児島厚生連病院
鹿児島市与次郎1丁目13番1号

8. 教育課程および授業時間数

教育課程は通信とする。

授業時間数は別紙のとおり。

9. 開講期間

令和2年7月1日から同年12月31日まで

10. 修業年限

6か月

11. 学級数、受講生定員

1学級 1学年 定員20名以下とする。

12. 受講資格

介護福祉士の資格を所持していないもの。

(科目免除を希望する者は、免除該当資格の修了証が交付されており開講までに写しを提出したものに限り。)

13. 受講者の選考

選考試験等は実施しない。

14. 受講手続き

①申込書に必要事項を記入し申し込む(免除該当資格の写し提出)

②当校より学則・受講料振込用紙等を発送。

③学則に同意の上で受講料を振り込む。

④入金確認後、受講確定(先着順)

⑤受講者不足により開講しない場合は返金行う。

定員超過の場合は、近隣開催を案内する。

15. 入所時期

原則、開講の1週間前まで(ただし定員に空きがある場合に限る)

16. 受講料

本研修の受講料は別表アに定める。

17. 教育内容

本研修の教育内容は別表イに定める。

18. 使用テキスト
中央法規 介護福祉士実務者研修テキスト全5巻
19. 免除科目
本研修で免除される科目について別表ウに定める。
20. その他の免除科目
19の免除に加え、「喀痰吸引等研修」を修了している方については、医療的ケア（演習を含む）を免除 ※修了証明と審査あります。
21. 受講上の注意事項
 - ・受講生は授業開始の5分前には着席すること。
 - ・通信課題は定められた期限には提出すること。
 - ・講義中の携帯電話等の使用は禁止する。
 - ・研修会場は敷地内を含めて禁煙とする。
 - ・駐車場は研修時間に限り使用を許可する。事故やトラブルに関しては個人の責任で対応する。
 - ・貴重品の管理は個人の責任で行うこと。
22. 通学授業時の欠席・遅刻・早退
通学授業時の欠席・遅刻・早退の場合は、必ず事務局に連絡を入れるようにすること。
23. 休学および復学
受講生が疾病、事故、その他やむ負えない事情により休学する場合、その事情を明らかにする書類（診断書等）を添えて提出し、養成施設長の承認を得なければならない。
休学者が復学しようとする場合、復学願いを養成施設長に提出し、その許可を得なければならない。
24. 賞罰
受講中に問題行為があった者は罰することがある。
25. 退学処分
授業の妨害や反社会的な行動がみられる場合は退学処分とする場合がある。受講料に関しては返金を行わない。
26. 学習の評価及び科目修了の認定
学習の評価は科目ごととする。

【通信課題】

通信課題をすべて提出し、合格点（70点以上）を満たしていること。

WEB管理で繰り返し挑戦可能である。通学授業が始まる前に合格点に満たなかった場合は未修学扱いとする。

通学授業以外の自宅学習については、メールや電話による質疑応答を行うなどの便宜を図る。

【通学授業（介護過程Ⅲ）】

介護過程の2/3以上の出席があり、試験の合格点（70点）を満たしていること。

合格点に満たなかった場合は1時間の補講後に再評価する。合格点に満たない場合は、未修学扱いとする。

【通学授業（医療的ケア）】

演習に全て出席し、全ての演習において評価基準を満たしていること。

合格点に満たなかった場合は1時間の補講後に再評価する。合格点に満たない場合は、未修学扱いとする。未修学になった場合の再試験は実施しない。

27. 修了証書等の交付

終了評価、通信課題提出の状況、受講態度、習熟度等を総合的に判断し、修了を認定された者に対し、修了証明書を交付する。

28. 退所手続き

やむを得ない事情により学習継続が不可能になった場合、退所届を提出し当会が受理することで退所とする。

29. 講義中止について

悪天候の場合など、安全性を考慮して講義を中止することがある。

30. 休業日

当会カレンダーに準ずる。

（年末年始、ゴールデンウィーク、夏季休業等）

31. 個人情報の取扱い

本会では「個人情報取扱規程」等を定め、個人情報を厳重に管理しており、今回取得した個人情報は、本研修の目的以外に使用しない。

32. 施行細則

本学則に定めのない事項で必要があると認められる場合、別に細則を定める。

(附則)

本学則は、令和元年8月1日より施行する。

(別表ア) 受講料

テキスト代込みの金額である。

消費税(10%)別の金額である。

(1) 受講生が介護職員基礎研修修了者の場合

eラーニング・・・ 80,000 円

郵送・・・・・・・・・・ 85,000 円

(2) 受講生が訪問介護員1級課程修了者の場合

eラーニング・・・ 80,000 円

郵送・・・・・・・・・・ 85,000 円

(3) 受講生が訪問介護員2級課程修了者の場合

eラーニング・・・ 80,000 円

郵送・・・・・・・・・・ 85,000 円

(4) 受講生が介護職員初任者研修修了者の場合

eラーニング・・・ 80,000 円

郵送・・・・・・・・・・ 85,000 円

(5) 上記以外の受講生の場合

eラーニング・・・ 90,000 円

郵送・・・・・・・・・・ 95,000 円

(別表イ) 教育内容

教育内容 (1)

科目		課題単元名		目標	授業構成
区分	科目名				
A	A-1 人間の尊厳と自立	A-1-1	人間の尊厳と自立	尊厳の保持、自立・自律の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護など、介護の基本的な理念を学ぶ。	尊厳、自立、自律、ノーマライゼーション、インクルージョン
	A-2 社会の理解 I	A-2-1	介護保険制度	介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割などを学ぶ。	高齢化、高齢社会におけるジェンダー、寝たきり問題、老老介護、介護保険法、2006年法改正、2012年法改正
	A-3 社会の理解 II	A-3-1	生活と福祉	家族、地域、社会との関連から生活と福祉をとらえることを学ぶ。	労働、家族、地域社会における個人の生活構造、社会規範の変化、児童福祉法、社会福祉法、母子福祉法、憲法第25条、生活保護法、知的障害者福祉法、老人福祉法
		A-3-2	社会保険制度	社会保障制度の発達、体系、財源などについての基本的知識を学ぶ。	社会福祉制度の体系、社会保険と民間保険の違い、社会扶助原則、年金保険
A-3-3		障害者自立支援制度	障害者自立支援制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者の負担、専門職の役割などを学ぶ。	障害者自立支援法、障害者の権利に関する条約、障害者基本法改正、地域生活支援事業、障害福祉計画、自律支援給付、障害福祉サービス利用の流れ、自立支援給付と利用者負担、ライフサイクルからみた支援組織、障害者政策委員会	
		A-3-4	介護実践に関する諸制度	成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービスなど、介護実践に関連する制度を学ぶ。	健康日本21、伝染病予防法、性病予防法、後天性免疫不全症候群の予防に関する法律、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、結核対策の諸制度、難病対策の諸制度、日常生活自立支援事業、成年後見制度、虐待防止制度、消費者保護法、個人情報保護に関する制度、医療と介護に関する諸制度、医療行為の定義、介護福祉士と医療行為
B	B-1 介護の基本 I	B-1-1	介護福祉士制度	介護福祉士制度の沿革、法の定義、業務範囲、義務などを学ぶ。	介護の歴史、介護の定義、医療と介護の連携強化、医学モデルから生活モデルへ、根拠のある介護へ、介護福祉士の制度化、専門職団体・学術団体としての役割、社会福祉士及び介護福祉士法、
		B-1-2	尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開	個別ケア、ICF(国際生活機能分類)、リハビリテーションなどの考え方をふまえ、尊厳の保持、自立に向けた介護の展開プロセスを学ぶ。	自立支援、自己選択・自己決定、個別ケア、リハビリテーション、リハビリテーションの動向、尊厳と介護の関係、QOL、
		B-1-3	介護福祉士の倫理	介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法・制度などを理解し、倫理遵守について学ぶ。	日本介護福祉士会倫理綱領、利用者の人権と介護、倫理判断の視点、倫理に添った介護の実践、尊厳ある介護の実践、個別性を重視した自律に向けた支援、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、生命倫理、高い倫理性
	B-2 介護の基本 II	B-2-1	介護を必要とする人の生活の理解と支援	介護を必要とする高齢者や障害者などの生活を理解し、ニーズや支援課題を把握することを学ぶ。	生活習慣、生活障害と認知症、生活課題、利用者主体、人権・健康・安全な生活環境、快適で健康的な居住環境(WHO定義)、居住空間を妨げる要因、くつろぎの生活環境
B-2-2		介護実践における連携	関連する職種や関係機関の役割、連携方法などチームアプローチについて学ぶ。	多職種連携、他職種の機能と役割の理解、他職種との連携の場面、地域連携、地域包括支援センター	
B-2-3		介護における安全の確保とリスクマネジメント	介護リスクの分析と事故防止、感染管理など、介護における安全確保について学ぶ。	リスクマネジメント、事故予防、安全対策、転倒予防、感染対策の3原則、感染対策とリスクマネジメント、感染症発生時の対応フロー	
B-2-4		介護福祉士の安全	介護福祉士の健康管理や労働安全対策について学ぶ。	介護職の健康管理、こころの健康、ストレス、ケアハラスメント、ストレスマネジメント、施設運営上のリスクマネジメント、燃え尽き症候群、メンタルヘルズ指針、腰痛予防、感染症予防、身体的疲労の管理、介護労働者の雇用管理の改善等に関する法律、安全衛生管理体制	

教育内容 (2)

科目		課題単元名	目標	授業構成	
区分	科目名				
C	C-1 コミュニケーション技術	C-1-1	介護におけるコミュニケーション技術	利用者・家族とのコミュニケーション・相談援助の技術を理解する。	コミュニケーション、パーソンセンタードケア、きつとウッドのコミュニケーション技術、二者間コミュニケーション過程、ジョハリの窓、円環的因果律、利用者・家族との信頼関係形成、関心を向ける領域、関心を示す5つの基本動作、人を構成する5つの側面、生活支援とコミュニケーション、ソーシャルワーク、グループワークのコミュニケーション
		C-1-2	利用者・家族とのコミュニケーション	ニーズや意欲を引き出すコミュニケーション、利用者の感覚・運動・認知などの機能に応じたコミュニケーションを活用し、援助関係を構築することを学ぶ。	傾聴、よいコミュニケーション、共鳴、共感、同一視、利用者の感情表現の特性、老後の肯定的な側面、共感の技法、観察の視点、環境整備、共感に裏付けられた納得と同意、明確化の技法、焦点化の技法、直面化の技法、要約の技法、質問によるコミュニケーション、質問の種類、利用者・家族への指導、身近な相談相手の活用、相談援助の基本原則、意欲を引き出す技法、意向を調整する技法
		C-1-3	介護のチーム・コミュニケーション	状況や目的に応じた記録、報告、会議などでの情報の共有化を学ぶ。	ヒューマンサービス組織におけるチーム、チームの発展過程、チームワークの阻害要因、フリーライダー
	C-2 生活支援技術 I	C-2-1	生活支援と ICF	生活支援における ICF の意義と枠組みを学ぶ。	生活、生活支援、障害老人の日常生活自立度判定基準、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準ライフコース、ライフサイクル、介護予防、介護予防の背景、介護予防システム、地域支援事業の内容、廃用症候群、廃用症候群の症状、生活における介護予防、レクリエーション、ICF、ICF の活用、ICF と介護過程、ストレングスモデル
		C-2-2	ボディメカニクスの活用	ボディメカニクスを活用した介護の原則を学ぶ。	ボディメカニクスの基本原則、ボディメカニクスの視点、力のモーメントとしてこの原理、重心と支持基底面積、摩擦力、慣性力、姿勢、動作、人間の基本姿勢
		C-2-3	介護技術の基本	介護技術の基本（移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔など）を学ぶ。	生活支援における介護技術、介護技術のポイント、介護技術実践におけるチェックポイント、身じたく、口腔ケア、衣服着用、整容、移動、車いす、杖歩行、食事、誤嚥・窒息、脱水症状、入浴・清潔、排せつ、睡眠、ターミナルケア
		C-2-4	介護福祉用具の活用と環境整備	居住環境の整備、福祉用具の活用などによる支援を学ぶ。	福祉用具の定義、歴史と制度、選定ポイント、居住環境整備、バリアフリーとユニバーサルデザイン、介護保険における住宅改修、施設における居住環境整備
	C-3 生活支援技術 II	C-3-1	利用者の状況に合わせた介護福祉用具の活用と環境整備	利用者の状態に合わせ、介護福祉用具等の活用、環境整備の支援を行うことを学ぶ。	基本確認、利用者の状況に合わせた介護福祉用具の活用と環境整備について事例検討(1)(2)(3)、フィードバック

教育内容 (3)

科目		課題単元名	目標	授業構成	
区分	科目名				
D	D-1 介護過程 I	D-1-1	介護過程の基礎知識	介護過程の目的、意義、展開などを学ぶ。	介護過程、介護過程の実際
		D-1-2	介護過程の展開	介護過程をふまえつつ、目標に向けて計画的に介護を行うことを学ぶ。	情報収集とアセスメント、アセスメントの視点、計画立案、目標設定、介護実践、目標確認・判断、記録、介護計画の評価、評価のポイント
		D-1-3	介護過程とチームアプローチ	チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、各職種の役割を学ぶ。	ケアマネジメント、ケアマネジメントの歴史、ケアマネジメントの対象、社会資源とケアマネジメント、ケアプランの立案、個別援助計画、介護過程と職種間の連携、エコマップ
	D-2 介護過程 II	D-2-1	介護過程の展開の実際	情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しについて学ぶ。	介護過程の展開についての事例検討 (1) (2) (3)
	D-3 介護過程 III 演習		介護過程 III 演習	介護提供、安全確保、事故防止、家族連携・支援、他職種、他機関との連携、こころとからだの状況に応じた介護知識・技術を総合的に活用することを学ぶ。	介護過程の基本確認、介護過程の展開の実践についての事例検討 (1) (2) (3)、フィードバック
E	E-1 発達と老化の理解 I	E-1-1	老化とこころ	老化に伴うこころの変化と日常生活への影響を学ぶ。	老化の原則、老化に伴うこころの変化とその影響、老化に伴うこころの疾病、老化に伴うこころの障害、高齢者の知能
		E-1-2	老化とからだ	老化に伴うからだの変化と日常生活への影響を学ぶ。	老化に伴う体の変化とその影響、老化に伴うからだの疾病、老化に伴うからだの障害
	E-2 発達と老化の理解 II	E-2-1	人間の成長・発達	発達の定義、発達段階、発達課題について学ぶ。	発達とは、発達段階と発達課題、フロイトの心理的・性的発達の理論、ピアジェの認知発達理論、エリクソンのライフサイクル理論、生涯発達過程に対する3つの影響
		E-2-2	老年期の発達・成熟と心理	老年期の発達課題、こころの課題(老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつなど)と支援上の留意点について学ぶ。	高齢社会の定義、高齢者、老年期における性格の変化、人格タイプと高齢期への適応、補償プロセス、高齢期のセクシュアリティ、ハーヴィガーストの発達課題、ラスレットのサードエイジ、プロダクティブエイジング、高齢者の3つの危機、定年退職後の男性のタイプ、ビッグファイブ(主観的幸福感)、ロートンのQOL、サクセスフルエイジング、PGCモラールスケール
		E-2-3	高齢者に多い症状・疾病と留意点	高齢者に多い症状・疾病などと支援の留意点について学ぶ。	基本確認、高齢者に多い症状・疾病について事例検討 (1) (2) (3)、フィードバック
F	F-1 認知症の理解 I	F-1-1	認知症ケアの理念	認知症ケアへの取組の経過をふまえて、今日的な認知症ケアの理念を学ぶ。	認知症とは、認知症の症状、認知症ケアの歴史、地域住民による認知症の理解
		F-1-2	認知症による生活障害、心理・行動の特徴	認知症による生活上の障害、心理・行動を学ぶ。	BPSD、認知症による障害、認知症の類似症状
		F-1-3	認知症の人とのかかわり・支援の基本	認知症の人やその家族との関わり方を学ぶ。	認知症ケア、感覚を刺激するかかわり、認知症の進行に沿うかかわり、認知症症状の観察、生活スペースの区分、環境の調整、日常生活場面の支援
	F-2 認知症の理解 II	F-2-1	医学的側面から見た認知症の理解	認知症の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療などについて医学的知識を学ぶ。	医学的側面から見た認知症の理解、認知症とは何か、心理検査
		F-2-2	認知症の人や家族への支援の実際	認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境などの状況に合わせ、地域サポート体制を活用した支援の実際を学ぶ。	基本確認、認知症の人・その家族への支援の事例検討 (1) (2) (3)、フィードバック

教育内容 (4)

科目		課題単元名	目標	授業構成	
区分	科目名				
G	G-1 障害の理解 I	G-1-1	障害者福祉の理念	障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史をふまえ、今日的な障害者福祉の理念を学ぶ。	障害の概念と定義、ICIDH、国内法における生涯の定義、国連の宣言における人権思想、ノーマライゼーション、自立生活 (IL) 運動、インクルージョン
		G-1-2	障害による生活障害、心理・行動の特徴	障害 (身体・知的・精神・発達障害・難病など) による生活上の問題、心理・行動を学ぶ。	障害が及ぼす心理的影響、障害の受容、価値転換論、ステージ理論、上田敏理論、精神分析
		G-1-3	障害児や家族へのかかわり・支援の基本	障害児やその家族に対する関わり方や支援を学ぶ。	家族支援の視点、家族の障害受容、ライフステージと家族、障害児家族のレスパイト、セルフヘルプグループ
	G-2 障害の理解 II	G-2-1	医学的側面から見た障害の理解	障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化などについて医学的知識を学ぶ。	障害者に対する介護の基本的視点、エンパワメント、アドボカシー、視覚障害、聴覚障害、言語障害、肢体不自由、麻痺、内部障害、知的障害、精神障害、発達障害、難病、高次脳機能障害
		G-2-2	障害児者への支援の実際	障害児者の障害、家族・社会関係、居住環境など、状況に合わせ、地域サポート体制を活用した支援の実際を学ぶ。	地域におけるサポート体制、障害児者への支援の実際、補装具・日常生活用具による日常生活支援、居住支援、就労支援、経済基盤の保障
	H	H-1 こころとからだのしくみ I	H-1-1	介護に関係したからだのしくみの基礎的な理解	介護に関連した、からだのしくみの基礎を学ぶ。
H-2 こころとからだのしくみ II		H-2-1	人体の構造と機能	生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクスなど、からだのしくみについて学ぶ。	消化器系 (嚥下から消化へ)、消化器系 (消化から排泄へ)、ブリストル便形状スケール、循環器系、DNA・遺伝ホメオスタシス、睡眠、死、こころの変化、からだの変化、骨格系、筋肉、神経系、脳
		H-2-2	人間の心理	人間の基本的欲求、学習・記憶などこころのしくみを学ぶ。	からだとこころの関係、ゲシュタルト心理学、行動主義心理学、新行動主義、精神分析学、防衛機制、神経細胞と神経伝達物質、マズローの欲求の階層説、欲求不満・適応、適応機制、ストレス、意識、心理学における学習、観察学習、レスポナント条件付け・条件反射実験、強化、消去、オペラント条件付け、感情、感情障害、認知的徒弟制、動機、記憶、情報処理モデル、知能測定法、調査方法論
		H-2-3	からだとこころのしくみをふまえた支援の実際	からだのしくみ、こころのしくみをふまえた支援の実際を学ぶ。	基本確認、からだとこころのしくみについての事例検討 (1) (2) (3)、フィードバック

教育内容 (5)

科目		課題単元名	目標	授業構成
区分	科目名			
I	I-1 医療的ケア	I-1-1 医療的ケアの基礎知識	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を学ぶ。	医療的ケアの定義、看護職による在宅での医療的ケアの提供、介護職による施設での医療的ケアの提供
		I-1-2 感染予防	介護職が行うべき感染予防を学ぶ。	標準予防策の遵守、滅菌と消毒、薬剤耐性菌、手洗い
		I-1-3 喀たん吸引と経管栄養	喀痰吸引と経管栄養の基本を学ぶ。	喀たん吸引が必要な場面、呼吸のメカニズム、たん排出のメカニズム、非侵襲的人工呼吸療法、侵襲的人工呼吸療法、人工呼吸器装着時の生活上の留意点、人工呼吸器装着における緊急時対応、人工呼吸器使用中のトラブル、たんの吸引を行う前の観察、喀たん吸引をする前に対応しておくべきケア、吸引器、口腔内吸引、上気道と下気道による区分、たんの吸引における注意事項、薬液浸漬法、喀たん吸引後の片づけ、たんの吸引に関する記録と報告、人工的な栄養補給が必要となる場面、経管栄養の種類、経鼻経管、胃ろう・腸ろう、経管栄養剤の種類、経管栄養のリスク、経管栄養の用具、胃ろうの日常ケア、経管栄養の中止、緊急時の対応、経管栄養の記録と報告
	I-2 医療的ケア演習	医療的ケア演習	医療的ケアの実技を学ぶ。	たんの吸引の基礎確認、実施手順、口腔内吸引(演習1)(演習2)、鼻腔内吸引(演習1)(演習2)(演習3)、気管カニューレ内部の吸引(演習1)(演習2)、救急蘇生法

(別表ウ) 科目の免除

モジュール (提出回)	科目	保有資格					
		訪問介 護員 1級	訪問介 護員 2級	訪問介 護員 3級	介護職 員基礎 研修 修了	初任者 研修 修了	無資格
モジュールA: 人間と社会	A-1: 人間の尊厳と自立	免除	免除	免除	免除	免除	履修
	A-2: 社会の理解 I	免除	免除	免除	免除	免除	履修
	A-3: 社会の理解 II	免除	履修	履修	免除	履修	履修
モジュールB: 介護 [1]	B-1: 介護の基本 I	免除	免除	履修	免除	免除	履修
	B-2: 介護の基本 II	免除	免除	履修	免除	履修	履修
モジュールC: 介護 [2]	C-1: コミュニケーション技術	免除	履修	履修	免除	履修	履修
	C-2: 生活支援技術 I	免除	免除	免除	免除	免除	履修
	C-3: 生活支援技術 II	免除	免除	履修	免除	免除	履修
モジュールD: 介護 [3]	D-1: 介護過程 I	免除	免除	履修	免除	免除	履修
	D-2: 介護過程 II	免除	履修	履修	免除	履修	履修
モジュールE: こころとからだのしくみ [1]	E-1: 発達と老化の理解 I	免除	履修	履修	免除	履修	履修
	E-2: 発達と老化の理解 II	免除	履修	履修	免除	履修	履修
モジュールF: こころとからだのしくみ [2]	F-1: 認知症の理解 I	免除	履修	履修	免除	免除	履修
	F-2: 認知症の理解 II	免除	履修	履修	免除	履修	履修
モジュールG: こころとからだのしくみ [3]	G-1: 障害の理解 I	免除	履修	履修	免除	免除	履修
	G-2: 障害の理解 II	免除	履修	履修	免除	履修	履修
モジュールH: こころとからだのしくみ [4]	H-1: こころとからだのしくみ I	免除	免除	履修	免除	免除	履修
	H-2: こころとからだのしくみ II	免除	履修	履修	免除	履修	履修
モジュールI: 医療的ケア	I-1: 医療的ケア	履修	履修	履修	履修	履修	履修